

岡山県感染症週報 2013 年 第 25 週 (6 月 17 日～6 月 23 日)

◆2013 年 第 25 週 (6/17～6/23) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 23 週 2 類感染症 結核 4 名 (30 代 女 1 名、60 代 男 1 名、80 代 男 1 名、90 代 男 1 名)
 第 24 週 2 類感染症 結核 11 名 (20 代 女 2 名、30 代 女 1 名、50 代 女 1 名、60 代 男 1 名
 ・女 1 名、70 代 男 2 名・女 1 名、80 代 男 1 名・女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O 型別不能 : 40 代 女)
 5 類感染症 ウイルス性肝炎 1 名 (40 代 男)
 風しん 2 名 (20 代 男 1 名、40 代 男 1 名)
 第 25 週 2 類感染症 結核 2 名 (40 代 女 1 名、70 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O26 : 30 代 女)
 5 類感染症 風しん 3 名 (30 代 男 2 名、50 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

○手足口病は、県全体で 84 名 (定点あたり 1.19 → 1.56 人) の発生があり、前週より増加しました。備中地域では 27 名 (定点あたり 4.43 → 3.86 人) の報告があり、第 22 週からひきつづき、発生レベル 3 で推移しています。
 ○ヘルパンギーナは、前週より増加しました。(定点あたり 0.67 → 1.57 人)

【第 26 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O26 : 10 代 女 1 名、20 代 女 1 名) の発生がありました。
 (6 月 24 日)

1. 風しんは、第 24 週に 2 名、第 25 週に 3 名の発生報告がありました。岡山県では今年の第 25 週までの報告累計が 60 名となり、第 15 週以降 11 週連続して発生報告が続いています。
 全国の第 24 週までの累計報告数は、昨年同時期の約 27 倍となる 10,822 名で、依然、患者の急増が続いています。詳しくは『風しん情報』をご覧ください。
2. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 24 週に 1 名、第 25 週に 1 名の報告があり、今年は第 25 週までに 17 名が報告されています。血清型別では、O157 が 11 名、O146 が 3 名及び O119、O26、O 型別不明が各 1 名となっています。食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは『今週の注目感染症』をご覧ください。
3. 手足口病は、84 名 (定点あたり 1.19 → 1.56 人) の報告があり、第 20 週から 6 週連続で増加しています。地域別では、美作地域 (4.00 人)、備中地域 (3.86 人)、真庭地域 (2.00 人) の順で、定点あたり患者数が多くなっています。備中地域では、前週 (4.43 人) より減少しましたが、第 22 週からひきつづき、発生レベル 3 で推移しています。流行のピークは、例年、7 月～8 月頃ですが、6 月頃から患者数の増加が見られます。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。
4. ヘルパンギーナは、85 名 (定点あたり 0.67 → 1.57 人) の報告があり、第 22 週から 4 週連続で増加しています。地域別では、倉敷市 (3.36 人)、岡山市 (2.29 人)、備中地域 (1.00 人) の順で、定点あたり患者数が多くなっています。岡山県の過去 10 年の発生状況を見ると、流行のピークは、7 月中旬以降となることが多いのですが、例年、6 月頃から発生報告数が増加します。症状がおさまっても、2～4 週間の長期間にわたり、便の中にウイルスが排出されることもありますので、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋をするなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★	RSウイルス感染症	→	★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★
感染性胃腸炎	↘	★★	水痘	→	★★
手足口病	↗	★	伝染性紅斑	↓	★
突発性発疹	→	★★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↑	★★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	↓		流行性角結膜炎	↓	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↘	★	クラミジア肺炎	↓	

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の増加



: 1.1～2 倍未満の増加



: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の減少



: 2 倍以上の減少



: 1.1 未満の増減

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症 腸管出血性大腸菌感染症

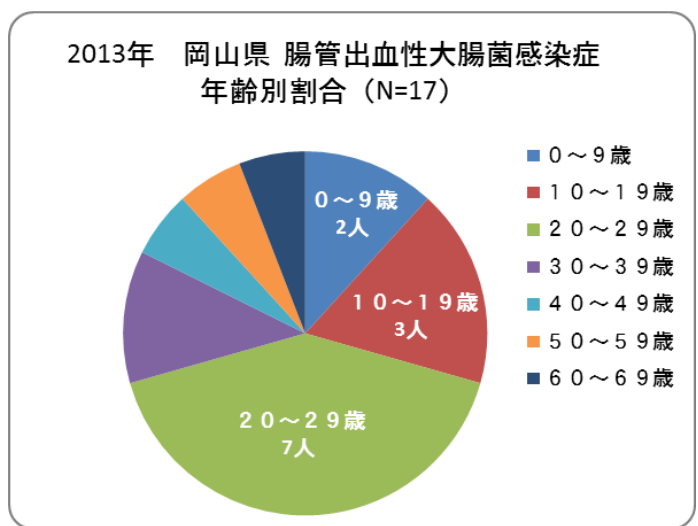
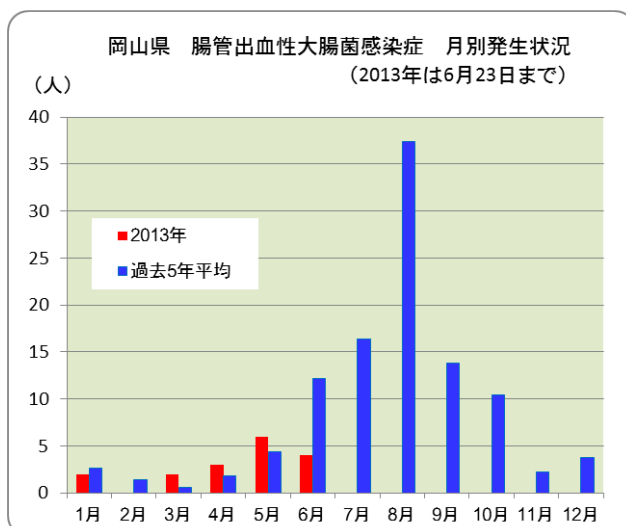
腸管出血性大腸菌感染症は、感染症発生動向調査において、全数把握感染症の3類感染症であり、医師は腸管出血性大腸菌感染症患者を診断したときには、直ちに最寄りの保健所に届出ることになっています。

また、学校保健安全法において、第3種の感染症に定められており、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで出席停止とされています。

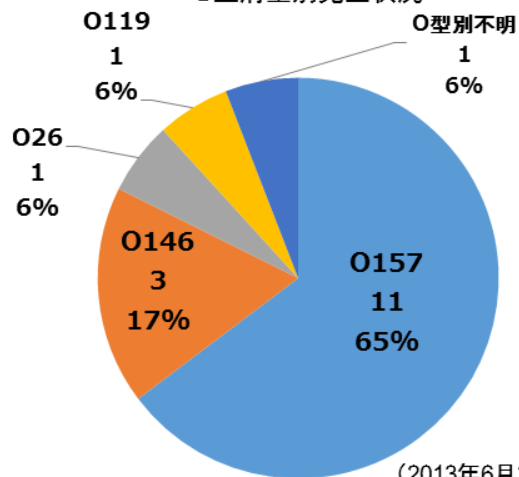
[腸管出血性大腸菌 Q&A \(厚生労働省\)](#)

【岡山県の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

岡山県では、第24週に1名、第25週に1名の報告があり、今年は第25週までに17名が報告されています。過去5年の同時期とほぼ同数の発生ですが、過去5年発生件数の平均を見ると、6月には5月の2～3倍の発生が見られます。また、例年7月、8月は1年のうちで最も発生が多くなりますので、感染に注意してください。



2013年 岡山県 腸管出血性大腸菌感染症
O血清型別発生状況



(2013年6月23日まで)

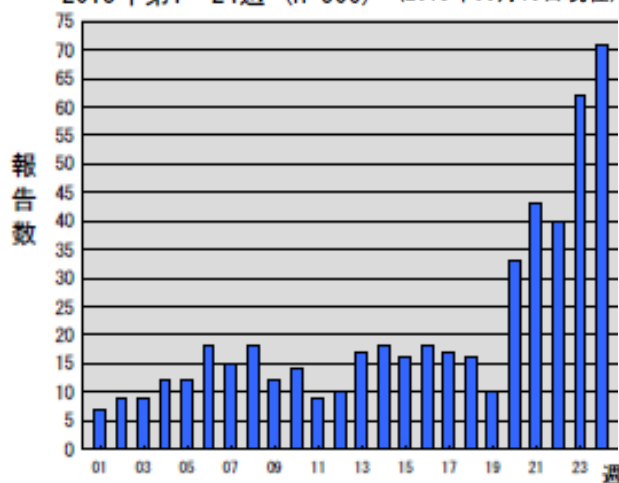
年齢別では、20～29 歳 7 名、10～19 歳 3 名、0～9 歳 2 名の順で多くなっています。また、血清型別では、O157 が 11 名、O146 が 3 名及び O119、O26、O 型別不明が各 1 名で、O157 が全体の約 70%を占めています。

今年、岡山県では、これまでに腸管出血性大腸菌感染症による死亡例はありませんが、抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので、特に注意が必要です。

食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、ひきつづき通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

全国 腸管出血性大腸菌感染症報告数

2013年第1～24週 (n=506) (2013年06月19日現在)



(国立感染症研究所 感染症疫学センター)

【全国の腸管出血性大腸菌感染症発生状況】

全国の第 24 週までの累積報告数は、506 名でした。週別発生報告数を見ると、第 20 週頃から報告数が増加し始め、第 23 週以降は、1 週間の発生報告数が 60 名を超えています。

【主な感染経路】

O157をはじめとするベロ毒素産生性の腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、経口摂取することによって感染します。また、便の中に含まれる腸管出血性大腸菌による経口感染により、人から人への二次感染が起こります。

【症状】

無症候性のものから、重篤な合併症を起こし死に至るものまで、さまざまですが、多くの場合、3～5 日の潜伏期をおいて、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状が出ます。有症者の 6～7%で、下痢などの症状が出て数日から 2 週間以内に、溶血性尿毒症症候群（HUS）、または脳症などの重篤な合併症を発症します。HUS を発症した患者の致死率は 1～5%とされています。

【予防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品はなるべく食べきる等の注意が大切です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、手洗いの徹底等により、感染を予防することができます。

正しい手洗い

～感染予防と拡大防止のポイント～

感染症や食中毒の予防の基本は、手洗いです。皆さんは正しい手洗いができていますか？

石けんをよく泡立て、正しい手順にしたがって、丁寧に**こすり洗い**をしましょう。しっかり手を洗うためには、30～40秒程度の時間が必要と言われています。大体の時間を、歌で確認するとよくわかります。

例えば、「もしもし、カメよ」を2回、「ハッピーバースデー」を2回など、自分の好きな歌を探してみましょう。

〈手洗いの前に〉

- ・爪は短く切っていますか？1週間に1回程度、爪を切っておきましょう。
- ・ひじの上まで袖をまくり、時計や指輪などのアクセサリーは外しましょう。

〈手順〉

①水で**手をぬらして**から、石けんをつけて、**よく泡立てる**。

②手の**ひら**と手の**甲**を洗う。

③指と指の間を洗う。指の**側面**、**付け根**も丁寧に。

④**親指**を洗う。

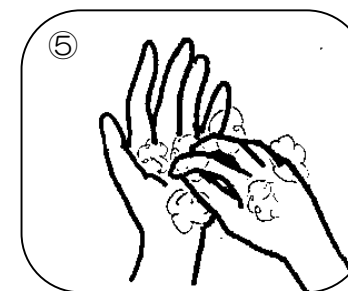
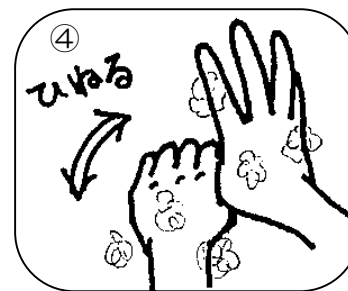
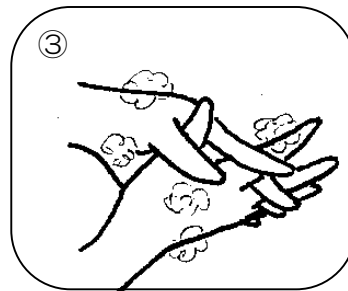
⑤**指先**、**爪の周り**を洗う。

⑥**手首**を洗う。

⑦**蛇口**を洗う

⑧流水でしっかりと泡を洗い流す。

⑨ペーパータオルで拭く
(タオルなどを共用にするのは×)。



②～⑥までで
30～40秒だよ。
各部分を
5回以上
洗ってね！

ごしごしと。



必ず手を洗うとき

- ・トイレから出た後
- ・調理の前
- ・食事の前

さらに、「外出先から帰ったとき」など、手洗い、うがいをして感染予防に努めましょう。

手洗いとともに

便を処理するときは、使い捨てのゴム手袋、マスクなどを着けましょう。
処理が終わったら、しっかりと手洗い、うがいをしましょう。

風しん情報

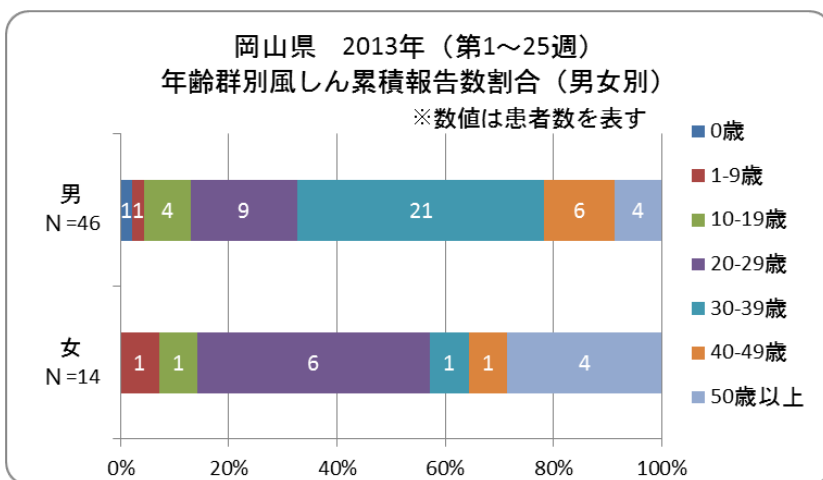
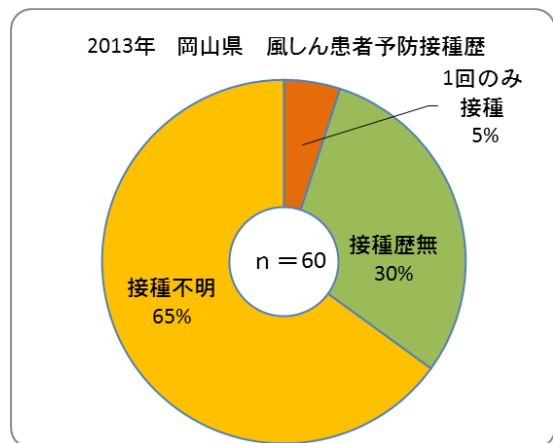
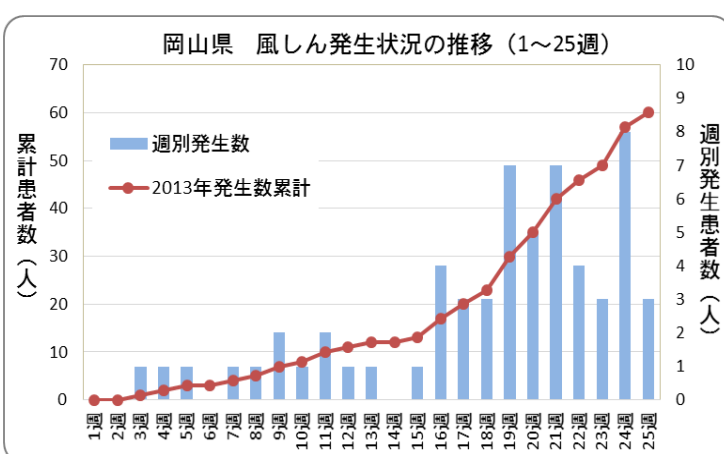
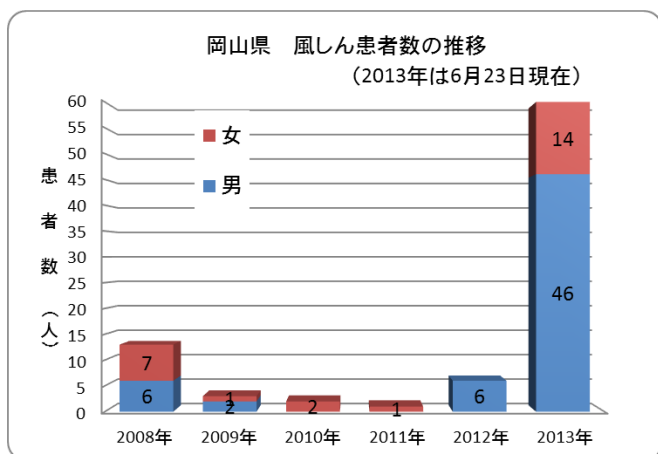
風しんは、「三日ばしか」とも呼ばれ、感染症発生動向調査において全数把握感染症の5類感染症であり、医師は風しん患者を診断したときには、最寄りの保健所に届出ることになっています。

今年は、関東地方・近畿地方を中心に患者の急増が続いています。風しんはせき、くしゃみ等の飛沫により感染します。風しんの流行地域に出掛け、その後、全身性の発しん、発熱、リンパ節腫脹などの症状がでた場合は、風しんの可能性がありますので早めに医療機関を受診してください。

[\(国立感染症研究所 風しん Q&A\)](#)

【岡山県の風しん発生状況】

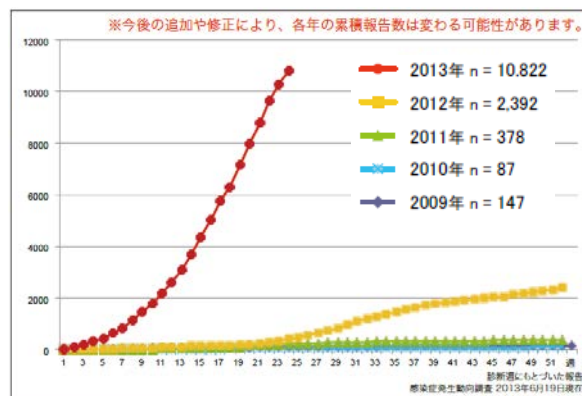
岡山県では、第24週に2名、第25週に3名の発生報告がありました。2013年第25週までの累積報告数は60名となり、第15週以降11週連続して発生報告が続いています。患者は、全国集計同様20～30代の男性が中心であり、予防接種歴は、接種歴無しが18名、接種不明が39名、1回のみ接種が3名でした。



【全国の風しん発生状況】

今年、全国の第24週までの累積報告数は10,822名であり、関東地方・近畿地方を中心に、患者の急増が続いています。患者の約8割は男性で、そのうち20～40代が82%を占めています。また女性は、20～30代が59%を占めています。この年齢層は、風しんの予防接種を受ける機会がなかった、または、集団接種から個人接種に切り替わったため、接種率が低く、抗体保有率が低い年齢層とされています。

また、妊婦が風しんにかかり、胎児に障がいが発生する先天性風しん症候群 (CRS) は、2012年は5名でしたが、2013年は6月12日までに、すでに6名の発生がありました。



全国風しん累積報告数の推移 2009～2013年(第1～24週)
国立感染症研究所 感染症疫学センターホームページより

【風しんの予防接種を受けましょう。】

風しんの有効な予防方法は、予防接種を受けることです。

風しんの定期予防接種対象者（1歳児、小学校入学前1年間の幼児）は、積極的に予防接種を受けましょう。また、定期予防接種の対象者以外の方でも、風しんの抗体価が十分であると確認ができた方以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。予防接種については、市町村の予防接種担当課へご相談ください。

風しんの予防接種を受ける場合は、麻しん対策の観点も考慮し、麻しん風しん混合ワクチン（MR ワクチン）を接種することが推奨されています。任意の予防接種者数が、例年に比べて急激に増加したため、今夏以降にMR ワクチンが一時的に不足することが懸念されています。MR ワクチン安定供給の目途がつくまでの間、任意の予防接種について①妊婦の周囲の方、②妊娠希望者又は妊娠する可能性の高い方、①②の方で、抗体価が十分であると確認できた方以外の方が優先して接種を実施できるよう、ご協力をお願いいたします。

[おかやま医療情報ネット](#)から、予防接種を実施している医療機関を検索することができます。ワクチンの在庫及び、予防接種のご予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

保健所別報告患者数 2013年 25週 (2013/06/17～2013/06/23)

2013年6月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	8	0.10	2	0.09	6	0.38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	2	0.04	—	—	1	0.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	2	0.14	4	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	33	2.36	8	0.73	2	0.20	1	0.14	—	—	1	0.50	14	2.33
感染性胃腸炎	255	4.72	83	5.93	59	5.36	48	4.80	12	1.71	19	4.75	9	4.50	25	4.17
水痘	67	1.24	25	1.79	18	1.64	11	1.10	1	0.14	3	0.75	—	—	9	1.50
手足口病	84	1.56	7	0.50	18	1.64	1	0.10	27	3.86	3	0.75	4	2.00	24	4.00
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	36	0.67	18	1.29	8	0.73	6	0.60	2	0.29	1	0.25	—	—	1	0.17
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	85	1.57	32	2.29	37	3.36	6	0.60	7	1.00	—	—	—	—	3	0.50
流行性耳下腺炎	18	0.33	7	0.50	3	0.27	7	0.70	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	1	1.00	1	1.00	—	—	—	—	2	2.00	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 25週 (2013/06/17～2013/06/23)

2013年6月26日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	8	0.10	2	0.09	6	0.38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	0.17	2	0.14	4	0.36	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	1.09	33	2.36	8	0.73	2	0.20	1	0.14	—	—	1	0.50	14	2.33
感染性胃腸炎	255	4.72	83	5.93	59	5.36	48	4.80	12	1.71	19	4.75	9	4.50	25	4.17
水痘	67	1.24	25	1.79	18	1.64	11	1.10	1	0.14	3	0.75	—	—	9	1.50
手足口病	84	1.56	7	0.50	18	1.64	1	0.10	27	3.86	3	0.75	4	2.00	24	4.00
伝染性紅斑	2	0.04	1	0.07	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	85	1.57	32	2.29	37	3.36	6	0.60	7	1.00	—	—	—	—	3	0.50
流行性耳下腺炎	18	0.33	7	0.50	3	0.27	7	0.70	—	—	—	—	—	—	1	0.17
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	1	0.08	—	—	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第25週 2013/06/17～2013/06/23)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	8	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計		-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	2	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	9	—	2	2	—	—	—	2	1	—	—	—	—	2	—	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59	—	1	2	3	5	7	9	10	3	4	4	4	9	—	2
感染性胃腸炎	255	6	24	37	23	27	24	12	9	9	10	5	28	7	34	
水痘	67	1	3	13	15	3	8	7	6	2	3	3	3	—	—	—
手足口病	84	3	7	36	19	7	5	4	1	—	—	—	—	—	—	2
伝染性紅斑	2	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	36	1	16	14	2	2	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	85	4	7	27	12	14	8	4	2	3	3	1	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	18	—	—	1	2	—	5	1	2	3	2	—	2	—	—	—

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

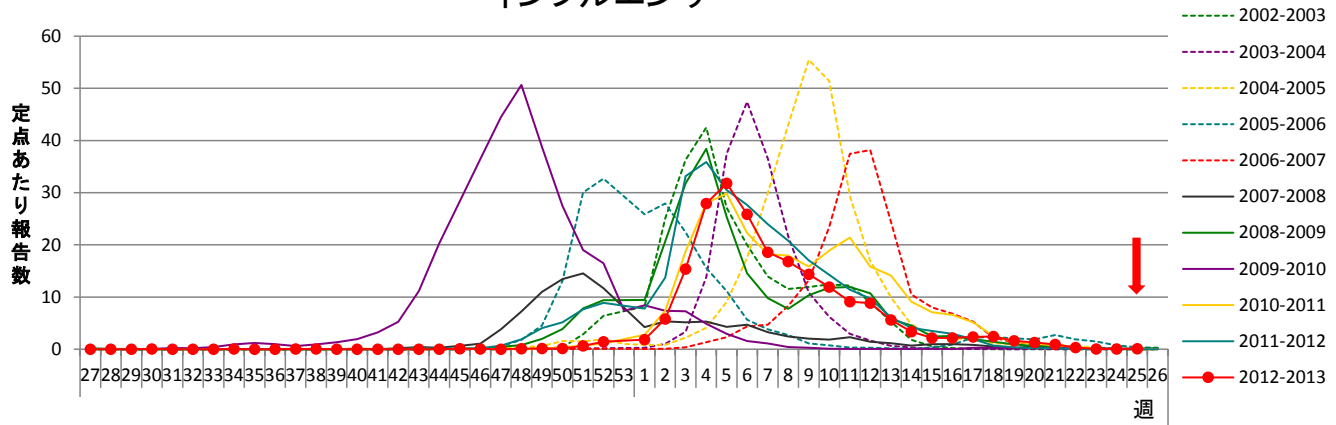
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

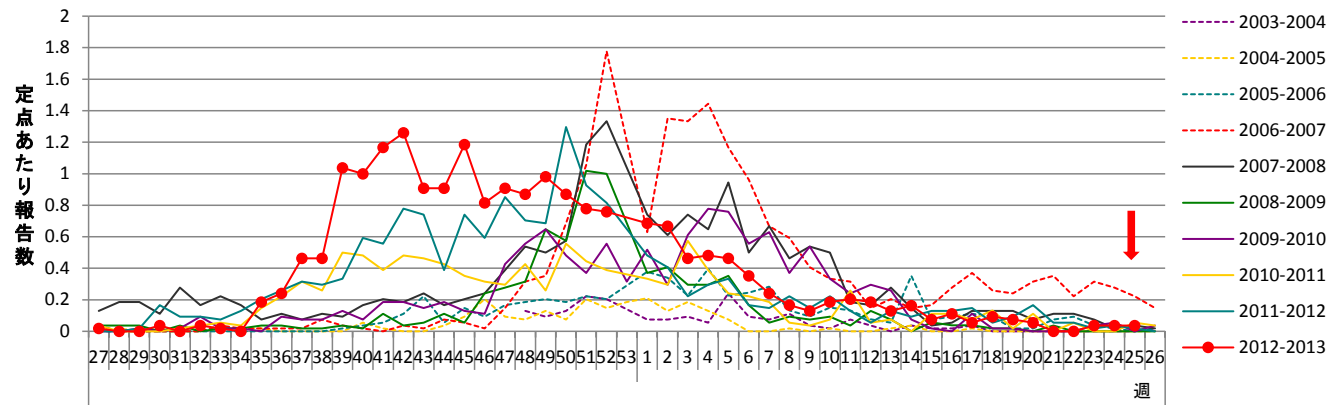
2013 年 25 週

分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	156	478	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	17	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	2
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	8	29	レプトスピラ症	-	1	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	5	11	ウイルス性肝炎*3	-	5	7	急性脳炎*4	-	2	2
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	2	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	6	16	ジアルジア症	-	-	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	-
	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	9	-	先天性風しん症候群	-	-	-
	梅毒	-	3	7	破傷風	-	2	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	2	風しん	3	60	6	麻しん	-	2	6

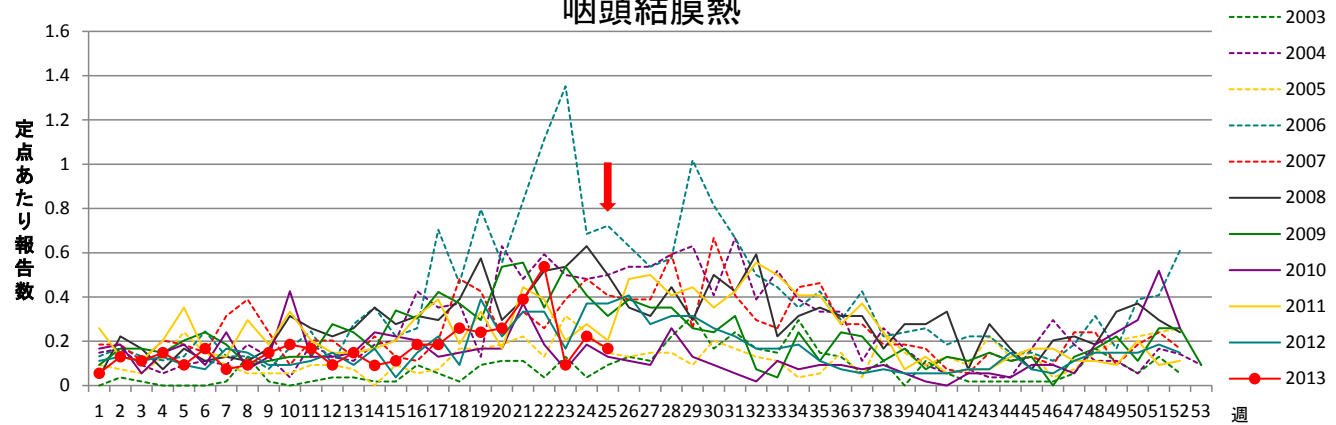
インフルエンザ



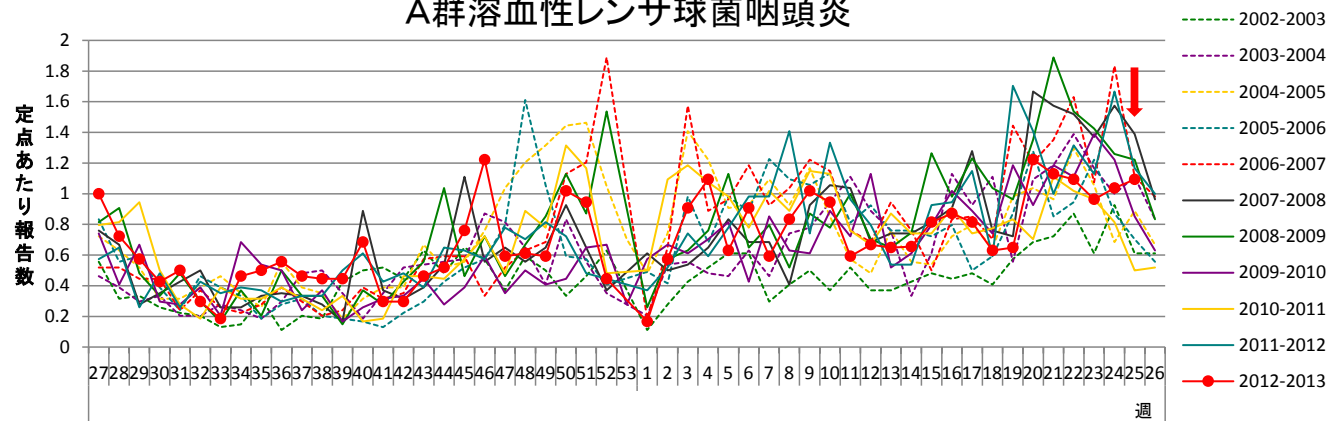
RSウイルス感染症



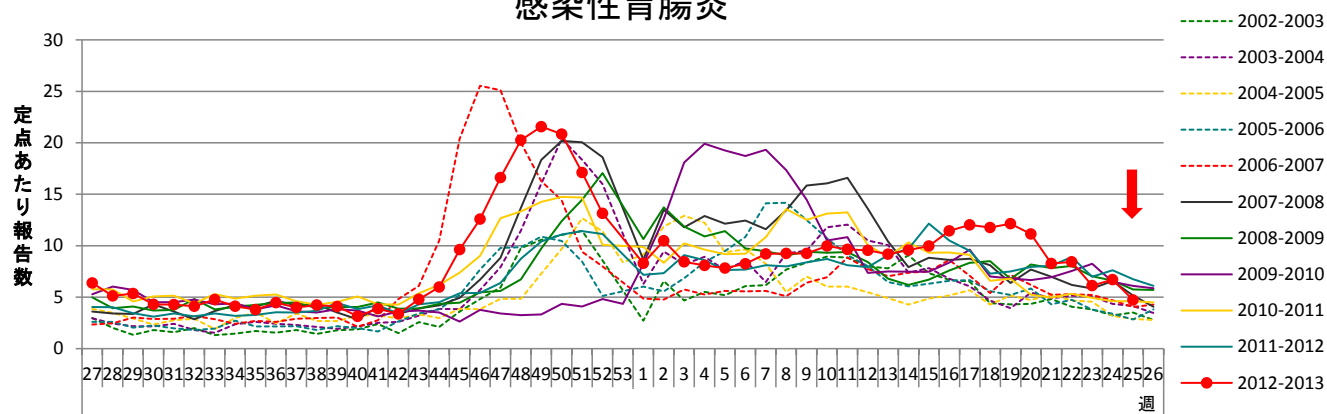
咽頭結膜熱



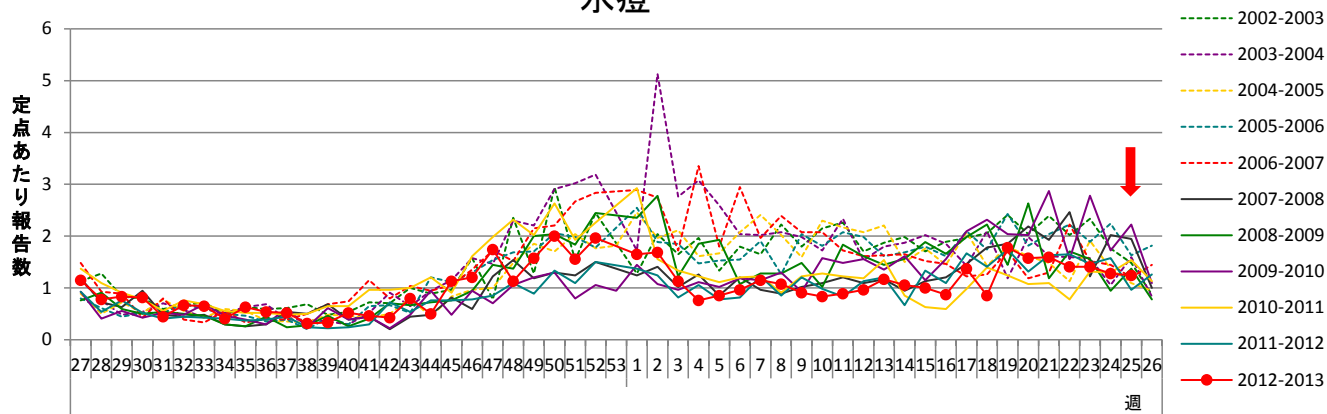
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



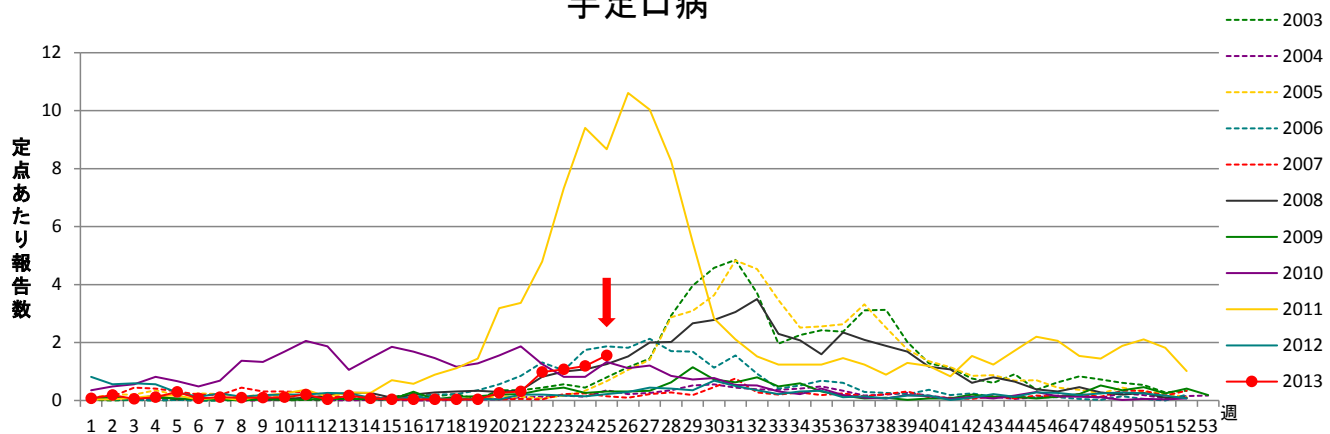
感染性胃腸炎



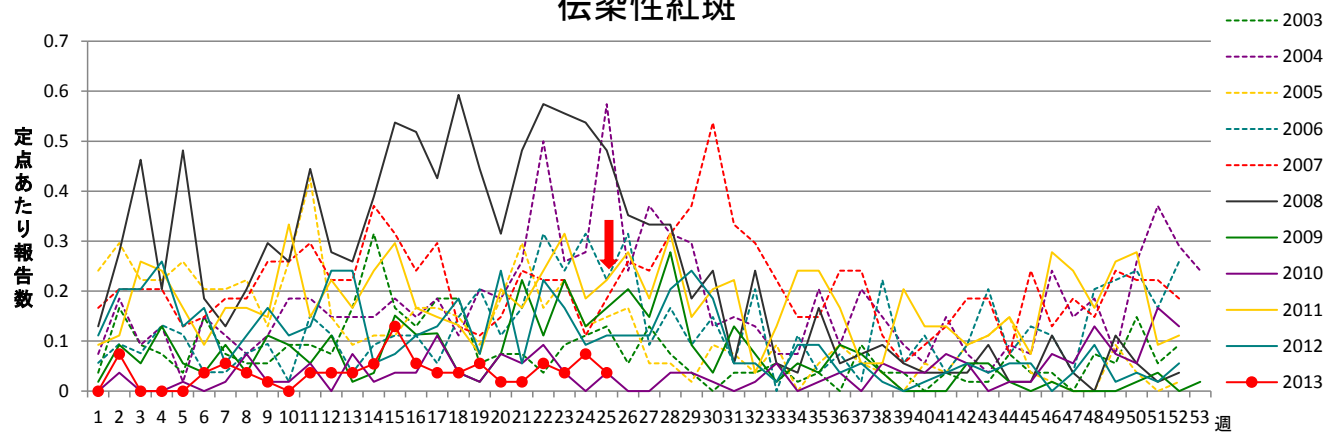
水痘



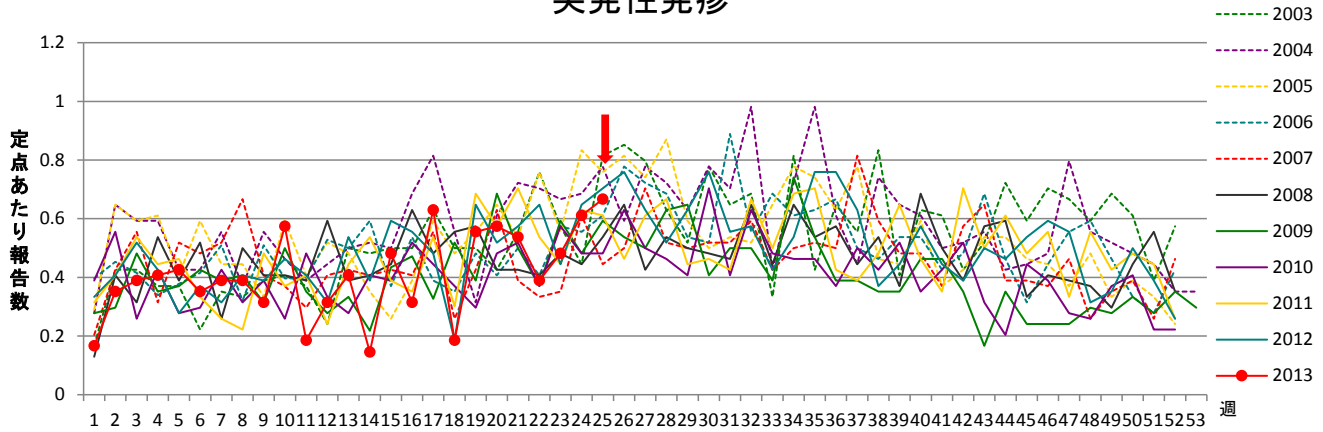
手足口病



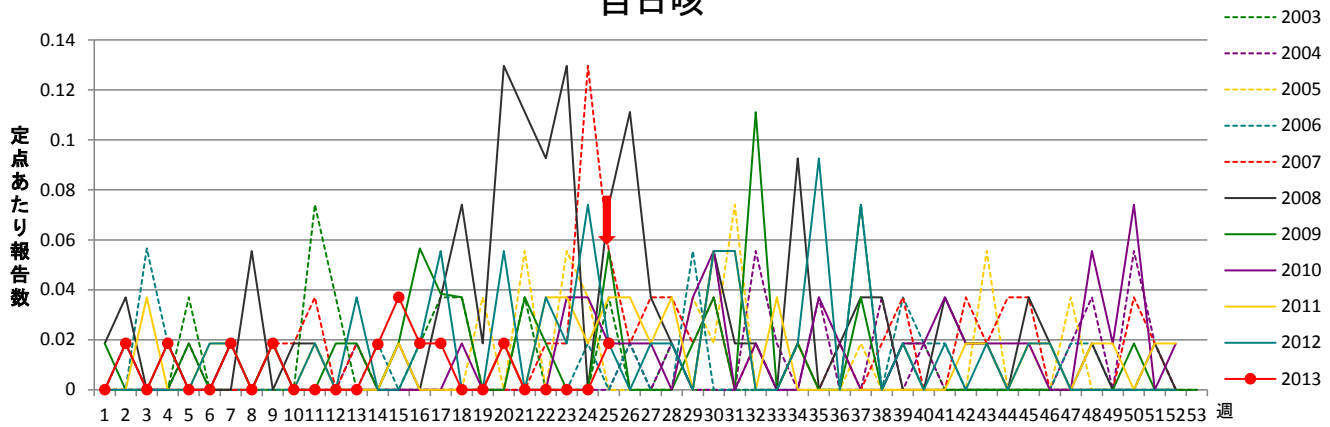
伝染性紅斑



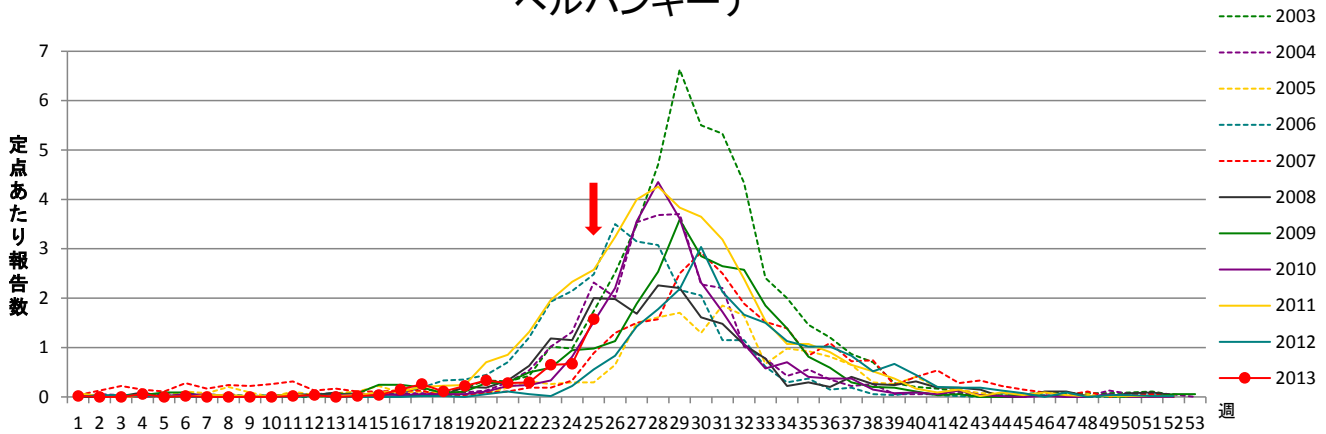
突発性発疹



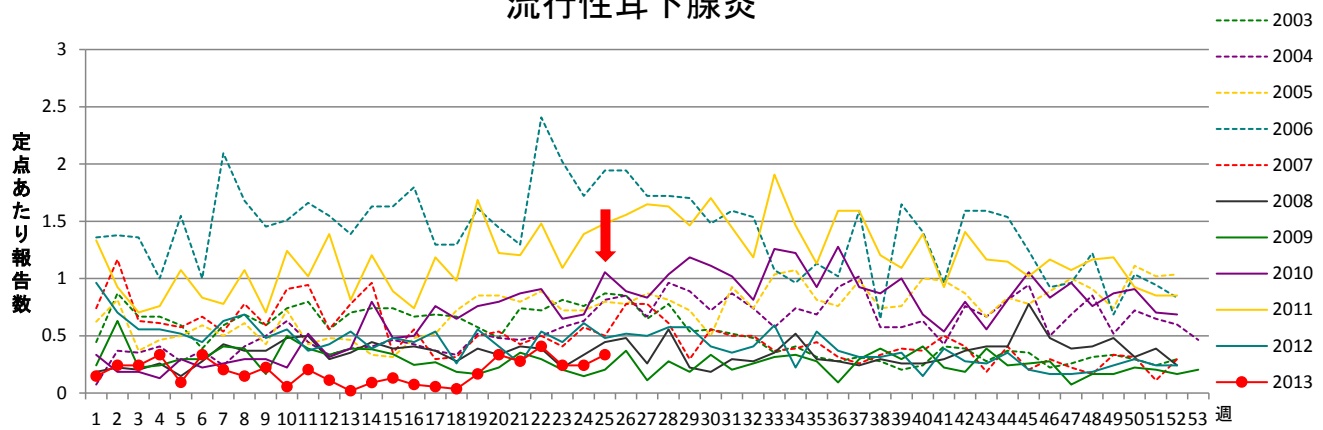
百日咳



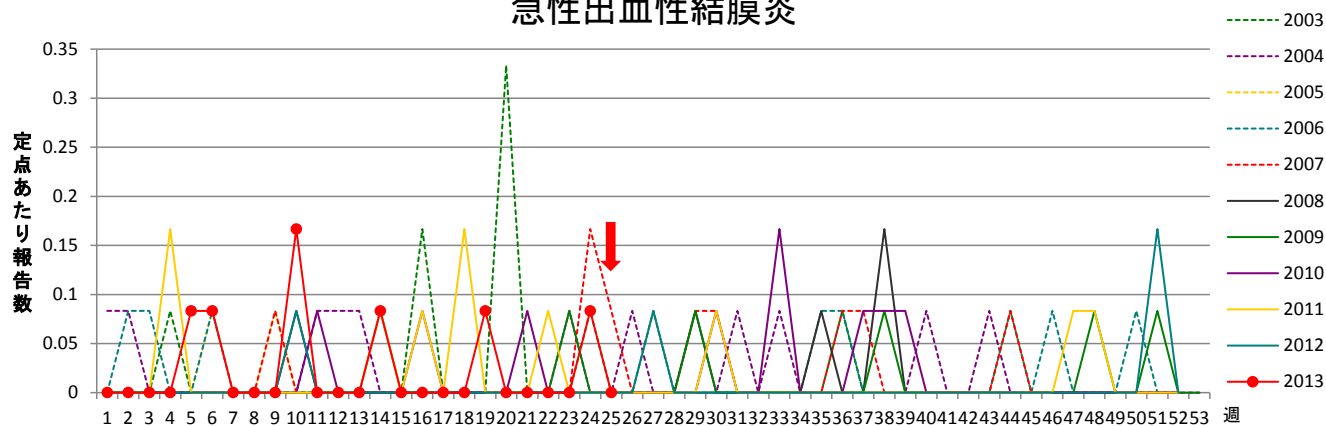
ヘルパンギーナ



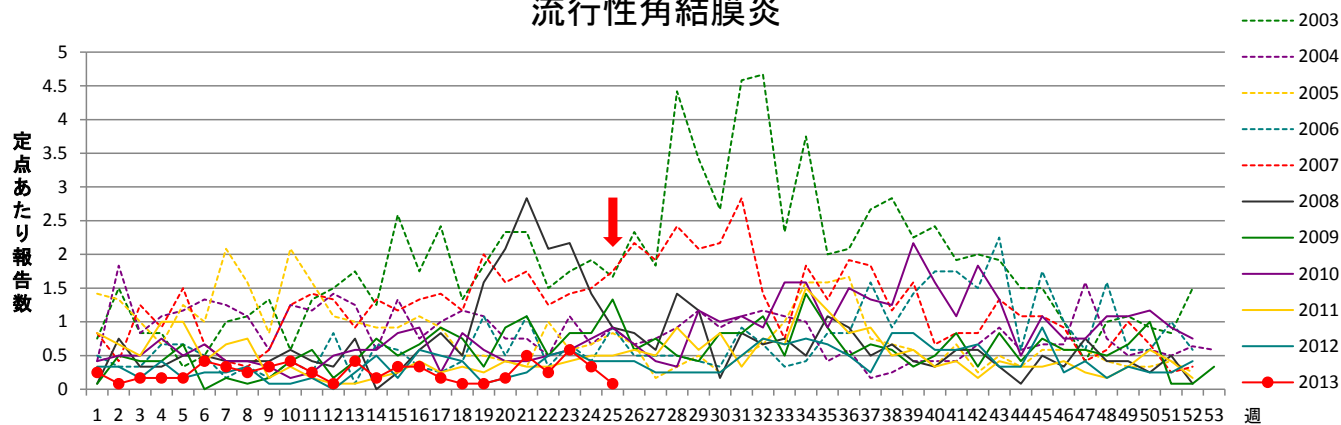
流行性耳下腺炎



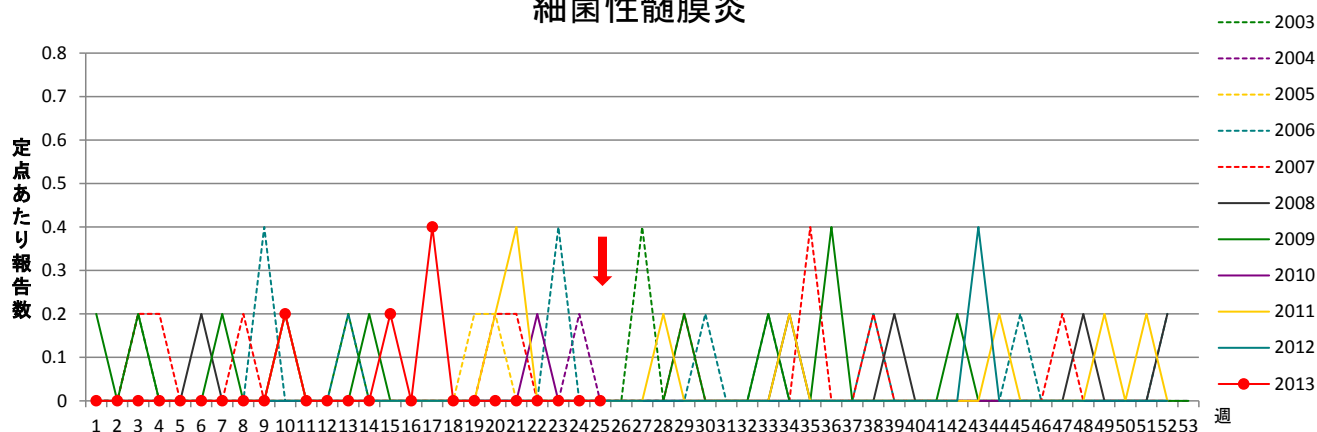
急性出血性結膜炎



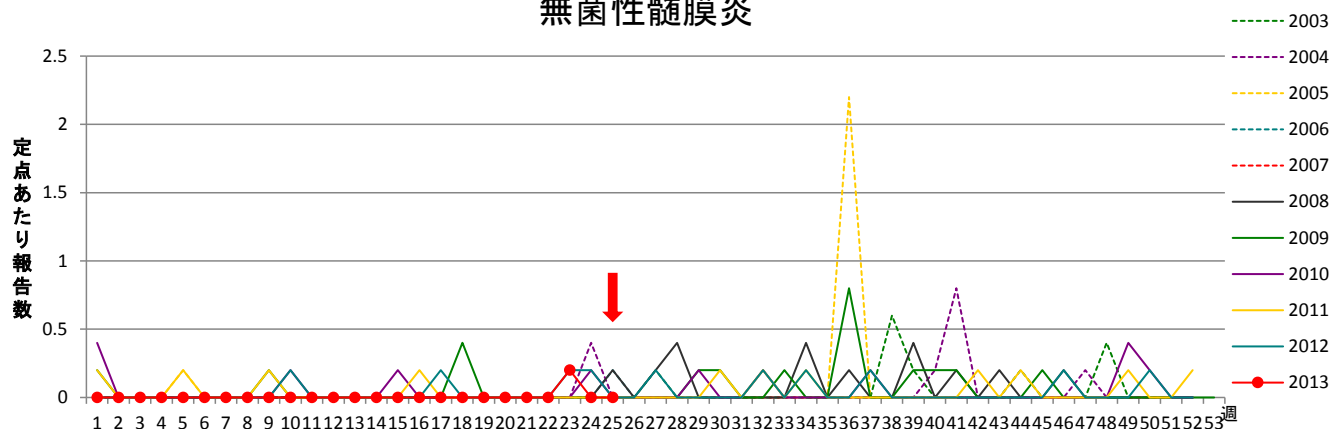
流行性角結膜炎



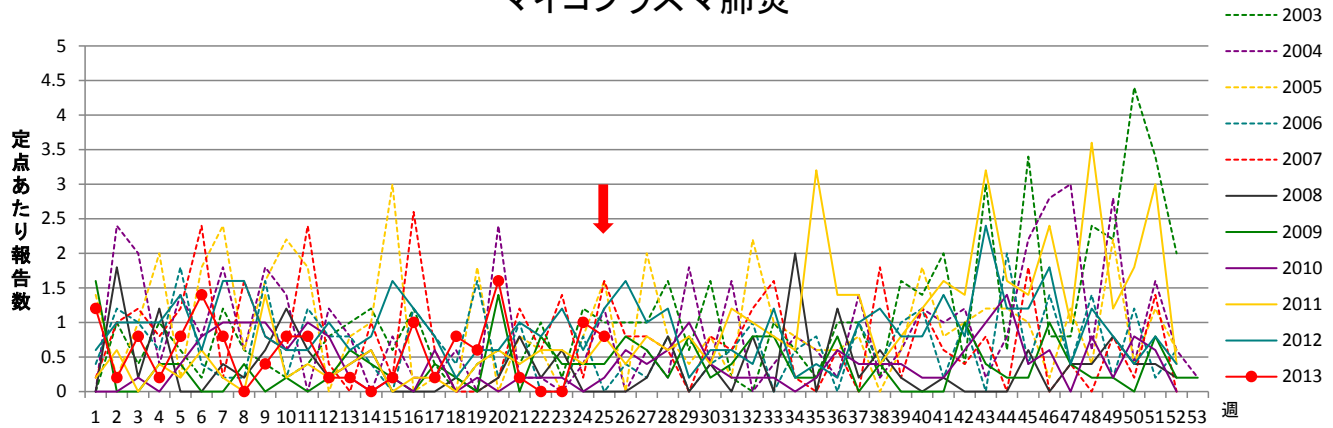
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

